

令和2年度 第2回千葉市立博物館協議会議事録

1 日 時：令和3年3月10日（水） 午前10時00分～11時15分

2 場 所：千葉市立郷土博物館 1階講座室

3 出席者：（委員） 副委員長他 3人出席

副委員長 小島 道裕

委員 広田 直行

委員 鈴木 一彦

委員 由利 知子

（教育委員会）

生涯学習部 佐々木部長

同部文化財課 佐久間課長、森本主査

（事務局）

同部加曾利貝塚博物館 加納館長、後藤副館長、長原主査

同部郷土博物館 天野館長、芦田副館長、錦織主査

4 議 題

（1）令和3年度の予算と事業予定について

（2）その他

5 議事概要及び議事結果

3 議 題

（1）令和3年度の予算と事業予定について

加曾利貝塚博物館及び郷土博物館関係の令和3年度予算と事業予定について説明し、各委員から意見が出された。

（2）その他

次回開催の時期について確認された。

6 会議経過

錦織主査の司会進行により会議が開会し、佐々木部長の挨拶の後、会議資料の確認及び運営規則第3条第3項の規定により、この会議が成立していることを告げた。また、千葉市情報公開条例第25条に基づき会議を公開していることを告げ、萩原委員長が欠席のため、以後、小島副委員長を議長として、会議が進行した。

議事（1）令和3年度の予算と事業予定について

< 説 明 >

加曾利貝塚博物館から令和3年度の予算と事業予定について説明を行った後、文化財課より令和3年度の特別史跡加曾利貝塚の史跡等の整備について説明を行い、その後、郷土博物館から、令和3年度の予算と事業予定について説明した。

< 質疑応答等 >

小島副委員長 ただいま、事務局から説明があったので、これからは、委員のみなさんに質問や意見をいただきたい。進め方だが、事務局3人から説明があったので、それぞれについて検討していきたい。ではまず、加曽利貝塚博物館について質問や意見をお願いしたい。

広田委員 教育普及事業についてだが、広報は主にどのような方法で行っているのか。

長原主査 市政だよりを第一とし、他にホームページなどで広報を行っている。また、イベントによってはチラシを作成し、市内の各施設に配布したり、デジタルデータを掲示してもらったりもしている。これらが主な広報手段である。

広田委員 今は加曽利貝塚の認知度を上げる時期ではないかと思う。あまりステークホルダーを定めなくて、一般に加曽利貝塚の存在をこのような事業を通して普及していった方がよいと思う。特に市政だよりは一般市民の高齢者の方に読まれる機会が多いと思うが、若者はほとんどがデジタルデータだと思うので、SNSなど安価な手段を使って積極的に発信する手段を検討されてはどうか。

小島副委員長 館の SNS 利用などで何か補足説明はあるか。

加納館長 現状では、私が考古学のことを分かりやすく伝えようと、ホームページ上で「館長の考古学日記」を2～3日に一度くらいのペースで更新しており、その更新に合わせて Twitter も更新するなどして、一般の方にも周知するように努めている。また、博物館の学術的なイベントとは異なり、先日「春よ来い！」という一般向けにハードルを下げたイベントを行った。これはまず、市民の方に「加曽利貝塚が何かやっている」ということ知ってもらい、それからとりあえず足を運んでいただいて、そこに少し学術的なものも含めた様々なメニューを用意するなどの工夫をしている。

小島副委員長 今、コロナ禍で非常に苦労していると思う。昨年も少し伺ったが、新年度に何かメリハリをつけてこれをやってみようということはあるか。

加納館長 現在は、まず加曽利貝塚を皆様にご存知いただくことと、足を運んでいただくことを優先している。密にならない範囲の小規模なイベントをなるべく数多く開催したいと考えているが、このような状況なので、いつ何をという具体的なメニューをお示しすることはできない。先ほどの「春よ来

い！」というイベントでは職員の負担をかけず、業務の多くを委託する形で、しかもなるべく屋外で実施するようにした。このように屋外でのイベントを回数多く、しかもちょっとハードルを下げた一般向けのものを実施してこうと目論んでいるところである。

小島副委員長　確かに縄文時代は人口密度が低いし、屋外生活が中心なのでいいかもしれない。他にあるか。なければ2番目に報告のあった特別史跡加曾利貝塚史跡等の整備について質問や意見があればお願いしたい。

鈴木委員　加曾利貝塚博物館の整備について、我々は計画を見せてもらって議論しているが、これは一般市民にはどのくらい知られていることなのか。公開されていると考えてよろしいか。

佐久間課長　昨年7月に素案を公表し、ホームページ上で見られるようになっている。また、特に新博物館の利用者へのサービスを検討する上で、素案をベースにレストランをどのように整備したらよいかなどについてワークショップを開催した。

鈴木委員　私が市内に住んでいないこともあるのかもしれないが、加曾利貝塚博物館が新しく計画されていることを外で聞かない。もしかしたら公開されていないのではないかと思ってしまった。しかし今、博物館のウェブサイトを見てみたが、ここからは新博物館のことはわからない。広く知れ渡ること、いろいろな人がいろいろなことを言い始めると対応がたいへんだということはわかるが、やはり博物館は市民のものなので、突然何か新しい建物ができ、自分たちの知らないところで新博物館づくりが進んでいたとなれば残念なことになる。いろいろな方法でもっと広報が必要だと思う。館長も積極的にブログを書かれているということだが、何らかの形でできるだけ新博物館をトピックとして取り上げるのがよいのではないか。また、少し踏み込んだ話になるが、日本博物館協会に加盟しているので、協会が毎月発行している冊子に何か文章を投稿することもあり得ると思う。そこに出れば博物館の専門家に行き渡るので、専門的見地から貴重な意見も出てくると思う。なるべく多くの人の様々な意見を取り入れた施設としていてもらいたい。

小島副委員長　この新博物館構想についてはこれまで報告もいただいて、我々からも意見を言ってきたところであるが、その後あまり大きな動きにはなっていないように見える。それは今こういう時期なので仕方がないと思うが、今、鈴木委員からあったように計画自体を公にしてどんどん周知していくことは今後進めていく上で、非常に大事なことだと思う。そこで前にも申し上げたが、準備を担う主体が誰かはっきりしないところがある。新しい博物

館をつくる以上、準備室というものを早く立ち上げて、もちろん現在の博物館の方が中核になると思うが、それとは別に新博物館の準備室ということも可視化してもらい、そこが先ほど出た日博協の『博物館研究』とかその他のあらゆる機会を捉えて発信するということが、こういう時期だからこそ必要ではないかと思った。準備室という観点でいうと、建物などはお金もないし直ぐには進まないと思うが、人をベースとした準備というのは着々と進めていくべきだし、できることだと思う。その辺りの状況はどうなっているか。

佐久間課長 準備組織については、本来であればこの4月にもできればよかったのだが、対応できなかったのが、来年度基本計画を策定して、順調にいけば令和4年度から基本設計に入ることになるので、その段階では少なくとも準備組織を立ち上げていきたいと考えている。

小島副委員長 設計段階でこれから博物館を担う人の意見が入っていないととんちんかんなことになってしまう。業者ベースで進んでしまっただけで、何でこれがこうなったのだろうと後で思うことが博物館では非常に多い。そこは極力早く実際に担う方たちの組織を立ち上げてもらいたい。あと一つ、言葉がよく分からなかったのだが、「民間事業者へのサウンディング調査等」とあるがこれはどういったものか。

佐久間課長 これはヒアリングのような形で、今このような事業を考えているが、興味がありますかというような調査である。縄文の森の場所でランドデザインの中でやりたことをイメージとして示しているが、これを市が直接やることは考えておらず、民活を導入したいと考えているので、どのような形にすれば参入の余地があるのかななどを対話していくという意味で、サウンディングという言葉を使っている。

広田委員 補足だが、廃校になった小学校の跡地利用について、何に使うかなどのサウンディング調査を千葉県の場合は結構やっている。市原では相当数それで決めている。

鈴木委員 企業側としては意見を求められる形となり、事業化するにあたっての提案もしてくるのだと思う。

小島副委員長 了解した。他に質問や意見はあるか。

広田委員 今少しストップしているようだが、県立図書館の委員会を2年くらい前に手伝っていて、整備する段階で、そもそもどうあるべきなのかを議論して、それを基本設計に反映させるということをやった。そこには国会図書

館の関係者とか公民館関係者などが全国から集まって、千葉大の先生が委員長を努めたのだが、それぞれの専門家が考えること以上のことが他分野から意見を聞くことによって図書館のあり方がどんどん広がっていった。ぜひ準備室のようなものを立ち上げたときには、専門家以外の方も入って意見を述べる場面を作ってもらいたい。あと、最近フェイスブックだったと思うが、千葉県的美術館でレストランの美味しいところを特集していたのを見たが、そこにはホキ美術館のイタリアンが美味しいというメッセージがあり、行ってみたらすごく混んでいた。川村美術館も評判が高かったが、今は休館しているということだった。このように違う目的での需要もあり、レストランで集客効果が上がるということもあるようなので、ぜひ他分野から意見をきいて計画を進めてもらえればと思う。

由利委員 先程の説明の中で、見学にきた学校の子どもたちが休憩する場所について考えてもらっていることはありがたいと思う。校外学習に行く場合は、広い場所がなくて昼食が取れないとか、そういった心配もしている。また、今は手洗いの場所や数なども意識しているので、そういったことも配慮してもらえると、今後感染症がどのようになっていくかわからないが、ありがたいと思う。

小島副委員長 ぜひ、学校関係者からの要望も丁寧に聞いて活かしてほしいと思う。では、次に郷土博物館の予算と事業予定について質問や意見をお願いしたい。

広田委員 たくさん印刷物の計画がこれからもあるようだが、冊子以外にPDFにしてホームページに載せているとか、そういうことはすべての冊子でやっているか。

天野館長 すべてではない。市史など現在販売しているものはやっていないが、今年度人を集めて実施できなかった講演会などについては、講演録を作成し公開している。また先日は、千葉大学と共催で行っている公開市民講座を今年は人を集めて開催することができなかったため、講演の様子を撮影して公開した。もちろん全てではなく、例えば特別展の図録などは購入してもらいたいのでPDFでの公開はしていない。

広田委員 例えば毎年出している千葉氏の小冊子はどうか。

天野館長 「まんが千葉常胤公ものがたり」は公開されている。

広田委員 最近広報の専門家に話を聞く機会があった。大学も広報誌をたくさん出しているが、ステークホルダーを定めて渡してしまうとその人にしか伝わらない。現在コロナ禍で、コロナが恐ろしいのは一人が感染すればそこか

ら何人かに伝染り、更にそこから他の何人かに伝染り、数がねずみ算式に増えていくことである。しかし広報ではそういったことをやっていない。大学では冊子を受験生に配るが、それでは受験生にしか届かない。受験生に届けるよりも一般市民に届けて、その噂話が受験生に届くという方がよほど広がりがあるという話であった。今年も『千葉市史編さんだより』とか『千葉いまむかし』などを発行する予定があるということだが、それらがアーカイブにもなるように PDF で見られる状況を作ってもらえればと思う。

芦田副館長 基本的に販売をするものについてはすぐに PDF で公開というのは難しいが、「千葉市史編さんだより」や講演録など無料で配布しているものについてはホームページ上で PDF を公開している。

広田委員 大学で今年始めようとしているのは冊子をやめて PDF だけにしようという試みである。それによって経費削減という面もあるのでご検討いただければと思う。

天野館長 『千葉いまむかし』などは品切れになって手に入らないものもある。そういったものについてはできるだけ PDF にして見られるようにしている。

小島副委員長 予算的には、電子化とか PDF 化する事業はどこに入るのか。加曽利貝塚博物館では先程そうした説明があったが、郷土博物館はどうか。

芦田副館長 僅かずつではあるが、資料収集保管事業の中で、通年で資料のデジタル化を進めていく。

小島副委員長 こうしたご時世でなくても雑誌は電子ジャーナル化がどんどん進んでいて、電子媒体で出すのが一番いろいろな人に届くということは間違いないので、ぜひ積極的に進めてもらいたい。講演録なども公開されて、人が集まれない中で非常に良いことだと思うし、ホームページや SNS での発信を両館長さんが自ら頑張っている。そうした新しい情報を出すということも大事であるが、もう一つ、アーカイブという点でいうと古いものを電子化して使えるようにするというのも非常に大きい働きである。これは博物館の持つ資産を活かしていく、来館しなくても使えるという点でもメリットが大きいので、こちらにも力を入れていただければと思う。市史の関係でいうと萩原委員長が薦めていた『千葉市誌』などは著作権も切れていそうなので全部 PDF 化して公開できないかと思ったりするのだが、そうしたことによって、図書館と組んでもよいが、アーカイブとして利用価値の高いサイトになっていくと思う。やはり郷土博物館は「千葉氏」と「千葉市」の2つの意味の専門館なので、それについての情報が博物館のサイトにア

クセスすると見られるということになると、いろいろな方が利用されると思う。

鈴木委員 先程の話と関連して、7ページに「千葉常胤公ものがたり」の増刷とあり、9,600部を市内の学校に配布とあるが、これはどういうところに配布されるのか。

芦田副館長 市内の小学6年生全員に配るものである。

鈴木委員 これを学校で活用するための話し合いはできているのか。

芦田副館長 小学6年生は歴史を初めて学ぶ学年になるので、その中で地元の武士団である千葉氏についてぜひ知ってもらおうという目的で配布している。また、先生によっては授業の中で使っていただけるのではないかと期待している。

鈴木委員 先生によっては使ってもらえる場合もあるかと思うが、子どもに直接渡すと持って帰ってそれでお終いというパターンが多いのではないか。これは学校の先生とよく話した方がよいと思う。ほんとうに紙媒体で配布する必要があるのか、活用してもらえるのかどうかについて考えなければいけない。

広田委員 動画などにするのも一つの手段である。

鈴木委員 今、歴史系の出版物で1万部刷るということは、民間の出版社では難しいのではないか。普通は、読んでもらえないので1万部も刷らない。子どもたちが持ち帰ってそのままゴミ箱に捨ててしまうことにもなりかねないので、印刷するにしても学校の先生方とのコミュニケーションをとる必要がある。

天野館長 その通りだと思う。今、当館のエducatorが出前授業について、小・中で10くらいの授業計画を作っているところである。その中に千葉常胤に関わることも入っている。これを次年度の当初、千葉市の校長会全体総会、社会科主任会、市の教育研究会の全体総会にエducatorと私で行って、もしよろしければ積極的に活用してくださいと伝える予定である。テキストは小学校であればこの「千葉常胤公ものがたり」を使うことが6年生全員に配布されているので実施しやすいと考える。こうしたことを令和3年度から推進していこうと思っている。そのことによって、少しでも先生方の意識変化に繋がってほしいと思っている。

小島副委員長 由利委員から学校での活用について何かないか。

由利委員 私は中学校なので、小学校でどのように活用しているかはわからない。中学校にも何冊かはいただいております、図書室に置いてあると思うが、具体的な活用状況については把握していない。

小島副委員長 博物館の刊行物などもっとこうしたら学校でも使いやすいとかいうことはあるか。

由利委員 博物館の刊行物について、今デジタルとか動画などの話があったが、少しずれるかもしれないが、このコロナ禍の中で集まったり、場所に行くことが難しい状況の中で、前回も話が出たかもしれないが、学芸員がビデオを持ちながら館内を案内し、展示してあるものを紹介するようなビデオを学校でも見られれば、子どもも興味を持ちやすいと思う。あまり博物館に行かない人にとって、博物館とはなんだろうという疑問があると思うので、テレビでは芸能人やレポーターがいろいろなところを紹介する番組もあるが、館内をレポートしながら紹介する簡単なものでいいので、そういうものがあればと思う。もっと言えば普段は見られない裏側の学芸員の作業なども紹介し、インタビューするなどすれば、子どもたちの興味を引くのではないか。

鈴木委員 You Tube でそうしたことをしている博物館がいくつかある。学校で職場体験もあるのでそうした動画を作っているということもあると思う。タレントなどを使わずに学芸員が出演すれば、それほど費用もかからない。

天野館長 エデュケーターの活動としても面白いかもしれない。

小島副委員長 昨年、国立歴史民俗博物館で行った企画展示を、ニコニコ美術館というところが取り上げてくれて、私も出演したのだが、それが想像以上に反響が大きくてびっくりした。先方からは、これまでは美術館が中心だったが、博物館こそが適切なコンテンツであるという評価ももらった。なぜかという美術館の美術品というのは見ればわかるし、やはり本物を見なければなかなか良さが伝わらないという世界だが、博物館の場合は逆に説明しないとよくわからないし、説明を聞くとたいへんよくわかる。かなり荒い画像だが、それでも十分伝わるし、アップで寄ったりもできるので、博物館はこういう方法に非常に適合的な世界だとお互いに認識を新たにして、これからもっとやろうということになった。また、お客様のコメントも非常に評判がよかった。だいたいギャラリートークというのは例外なく評判がいいものだが、残念ながら今そうしたことができないので、その代わりにこうしたことをやると来館できなかった方にも伝わるのでよいということ

がわかった。コメントで印象に残ったのは博物館を一緒に見るのは面白いというものであった。みなさんこれで一緒に見た気分になってくれるんだと思って勉強になった。

佐々木部長 先程、由利委員からお話があったことについて、学習支援用映像コンテンツ「千葉市の不思議を学び隊！」というものを加曽利貝塚博物館、郷土博物館、埋蔵文化財調査センターそれぞれについて作成し、You Tube で配信・公開している。コロナ禍をきっかけにして、現地に行かなくても実際に行った気分になれるということが非常に大切な視点だということで財政にかけあってお金を用意し、これを作った。また作って終わりではなく、それぞれのカウントも分かる形になっているので、お互いに切磋琢磨して広げていきたいと考えている。これについては記者発表もしたのだが、PR が足りなかった部分もあったかもしれない。ぜひ由利委員も学校で PR していただければと思う。

小島副委員長 そうしたもののコンテストをやってはどうか。学校の生徒に見てもらって投票してもらうとか。市の方でもそれぞれの館だけに任せないで、機材や技術、もちろん資金についても、それほどお金がかかることでも無いと思うので、こうした時期にただ待っているだけではジリ貧になるだけなので、新しい方向を開拓するいいチャンスだと思う。国立歴史民俗博物館もこう見えて知名度が低い。大阪の国立民族学博物館としょっちゅう間違えられている。実際にこうしたことをやってみると初めて知ったという人が多い。やはり来館ということはそうとうハードルが高い。自宅や学校で気軽に見られるということで利用層の拡大に資するところがあると思う。

由利委員 GIGA スクール構想で、今後一人一台のタブレットという方向にもなっているの、子どもたち一人ひとりが選んで視聴するようになるかもしれない。

小島副委員長 授業でも使えるかもしれない。授業中に見てもらって、どこがよかったとか悪かったとか。学校もデジタル化が進み、場合によっては在宅で授業をしなければいけないかもしれない。やはり博物館側のコンテンツをきちんと整備して利用してもらえるようにすると、学校との接点も増えてよい。

あと、もう一点素晴らしいことだが、次年度から研究員が増員になったということだったが、これはかねがね充実をお願いしてきたところだが、具体的にいうとどういった分野の方がきて、どんな仕事をする予定なのか。

天野館長 これから開府 900 年を迎えることもあって、中世史でかなり成果をあげている方に週 3 日ではあるが、来ていただくこととなった。これも部長を

はじめ文化財課の方々にも尽力していただいたおかげである。この方に来てもらえるので企画展も例年よりも増やすことができると思っている。やはり人員がいないと一人の負担が大きくなるので、分け合いながら特別展・企画展が開催できるようにしていきたい。

小島副委員長 それはよかったと思う。もう一つリニューアルについてだが、これまで我々も検討して提言もしてきたが、確かに今はとてもハード事業にお金を使える時期ではないということは分かっているが、ソフト事業的な部分はどんどん充実させる必要がある。やはり人を確保しないと箱だけ作っても仕方がないので、できるところは予算面も含めて充実させてもらえればと思う。次の協議会でもその話も具体的に聞きたいと思う。リニューアルの方は今止まっているとは思いますが、止めたままでいいということでもないので、今後の見込みなどがあればうかがいたい。

天野館長 我々も館のリニューアルについてはかなり強力に要望したのだが、残念ながら今年度は認められなかった。しかし、大きな契機となる開府900年を迎える令和8年度を控えているので、当館の足りない部分についてはそうとうにアピールをして、その必要性についてはようやく理解されてきたと思う。確かにこれでは政令市の博物館として足りないだろうということで、様々な方策を考えながら、令和8年までには通史展示を含めた館内のリニューアルを行いたい。もちろん根本的なリニューアルとはならないが、そこに持っていけるように戦略的に進めようとしているところである。あわせて、そこまでに行う特別展・企画展もリニューアルの展示に使えるような内容を選びながら、それらを蓄積するなど、ステップを踏んで進めて行こうと考えているところである。

鈴木委員 郷土博物館のリニューアルがあり、加曽利貝塚博物館の新設もある中で、今回市長が変わる。よほど説得力のあるプランでないと、新しい市長がどう考えるかわからないと思う。これまでも議論を固めてきてはいるが、予算の無い中でどのように着実に進めていくのかを考えて行く必要があると思う。

天野館長 文化財課とも相談しながら戦略的に進めていきたいと考えている。

小島副委員長 特別展・企画展で常設の総合展示の材料を蓄積するということは非常にいいやり方だと思う。去年の軍都の展示は非常に意欲的でいい展示だったと思うが、引き続いて今年度の事業でも近現代を網羅する形で企画を立てているということで、非常に戦略的なやり方だと思う。かねがね言っているが、今の常設展には近世部分が無い。やはり中世がいきなり現代になるはずは無いので、間の近世こそが千葉の街の元なので、その部分につ

いて同じように企画展を総合展示に繋げていくことを考えてほしい。その辺りは何か予定しているのか。

天野館長 まだ、具体的には決まっていないが、次年度は近現代で、それ以降は中世をやりながら近世の特別展を入れ込んでいく予定である。そうしないと近世の展示が見えてこない。農業や商業、他に生実藩などもあるので、複合的に近世の姿を探れるような特別展をリニューアルまでには入れ込んでいきたい。まだ腹案ではあるがそのように考えている。

小島副委員長 それは楽しみである。他に意見はあるか。これまで3つ報告に対して一通り検討してきたが、全体を通して新年度の予算・事業について、あるいは少し中長期的な話も出てきたので、それに関してでも構わない。

小島副委員長 なければ、今、各委員から様々な意見・提案が出されたが、すぐにできそうなものもあったので、ぜひ検討して事業を進めてもらえればと思う。では議題1については以上とする。

議事（2）その他

小島副委員長 事務局から何かあるか。

天野館長 今回の協議会は夏頃を予定している。次回は令和2年度の活動報告をさせていただきます、そこでいただいた意見を次年度の予算に反映させたいと考えている。後日日程を調整させていただくのでご協力をお願いしたい。

小島副委員長 他に何かあるか。なければ、本日の議事はここで終了する。

錦織主査の進行により、令和2年度第2回千葉市立博物館協議会を終了した。

問い合わせ先 千葉市立加曽利貝塚博物館
TEL 043-231-0129
千葉市立郷土博物館
TEL 043-222-8231